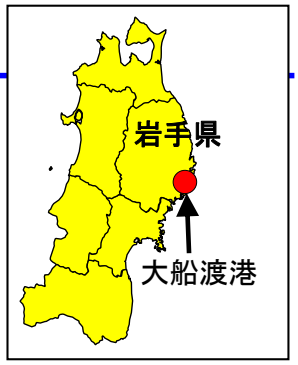
大船渡港 永浜地区 多目的国際ターミナル整備事業

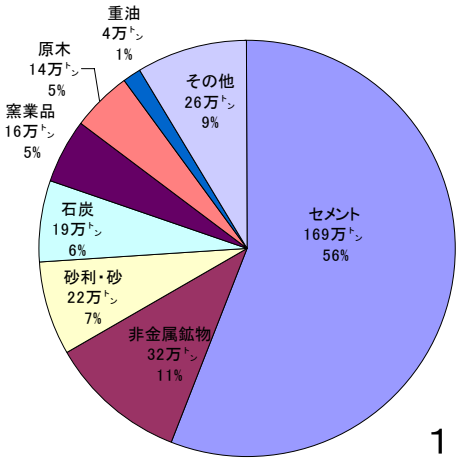
○大船渡港の概要

・県南の物流を支える重要港湾（S34年指定）
・我が国初の湾口防波堤（S42年完成）





H18年取扱貨物量　302万トン



○事業目的

【目的】・船舶の大型化への対応
・老朽化が進む既存施設の代替施設の確保



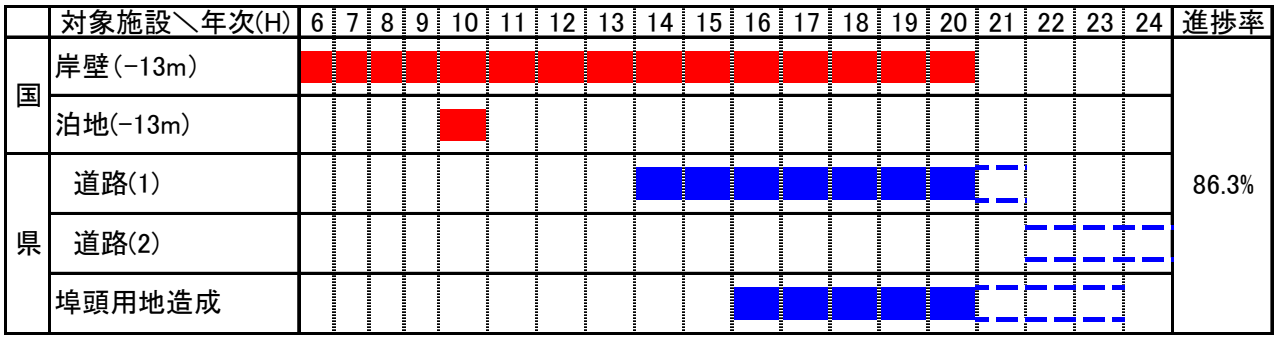
茶屋前地区の現状



○事業概要及び進捗状況

中心的施設	岸壁 (-13m)	H6～20年度	国
関連施設	泊地(-13m)	H10年度	国
	埠頭用地、臨港道路	H14～24年度	県

事業費	160億円(H20年度迄　投資額:138億円、進捗率:86%) (H15年度迄　投資額: 74億円、進捗率:47%)	
	国	119億円(H20年度迄　投資額:119億円、進捗率:100%)
	県	41億円(H20年度迄　投資額:　19億円、進捗率:　46%)



○前回評価との比較

◆前回評価時費用便益比との比較
- ・前回評価時　B／C＝1．7
- ・今回評価時　B／C＝1．5

◆前回からの変更事項

○事業費の変更
- ・地元産の砕砂利用によるコスト減
- ・護岸整備延長の増加によるコスト増

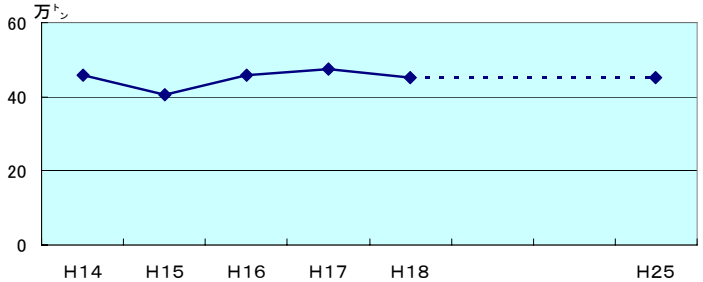
⇒ 2億円増

○整備期間の変更
- ・地盤の沈下待ち等による整備期間延長

⇒ H18 → H24年度

○想定貨物量の変更
- ・想定貨物量をH18年度実績に変更

⇒ 53万ﾄﾝ → 46万ﾄﾝ



○便益の考え方

代替港：宮古港（−12m岸壁）

◆陸上輸送コスト削減

陸上輸送距離　95km → 2km ： 93km減

⇒ 陸上輸送距離短縮による輸送コスト削減

◆海上輸送コスト削減

岸壁水深　12m → 13m
船型　30,000DWT → 40,000DWT
寄港回数　17回 → 13回 ： 4回減

⇒ 海上輸送回数減による輸送コスト削減

5

○費用便益分析結果

	事業全体の投資効果	残事業の投資効果
B：便益（現在価値化後）［億円］	264	264
C：費用（現在価値化後）［億円］	179	20
費用便益比（CBR）B／C	1．5	13．4
純現在価値（NPV）B－C［億円］	85	245
経済的内部収益率（EIRR）［%］	5．5	35．8

○定性的に把握する効果

・環境負荷の低減（CO_2及びNO_X削減）
・近隣住民の生活環境の改善（粉塵、騒音等）

○対応方針（案）： 事業継続

・事業の投資効果が認められる
・地元からの要望が強い
・事業が進捗

6